

3.1.3a.東海・近畿地域独自の解析について(1985～2005年)【Web版】

1. O_x 月別経年変化

近年、春季に O_x 濃度が高くなる傾向が見られることから、月平均濃度の経年変化と、4～10月にかけての濃度ランク別(0～79,80～89,90～99,100～109,110～119,120～129,130以上 ppb の 7 ランク)出現時間数の経年変化を見た(表 1)。共通して 4,5 月の濃度が高くなる傾向があり、濃度ランクでは、80～109ppb の出現時間数が増加している。

また、月平均値の増加率を 1985～2005 年にかけて比較を行った(図 1)。全体として春～初夏にかけての濃度の増が大きい。近年、4,5 月で、1.0ppb/年を超えるところが多くなっている。

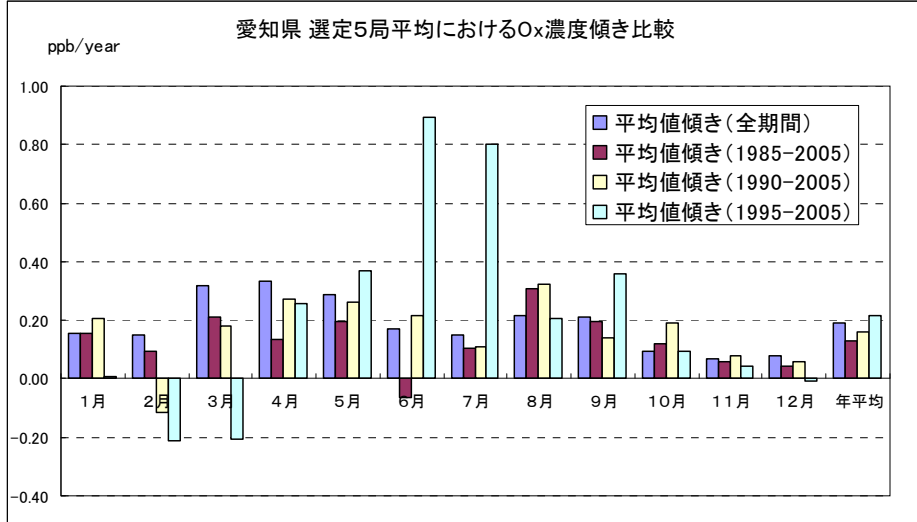
以上のことから、将来、注意報レベルの濃度の出現時期が早くなる可能性があると考えられる。

2. O_x 年平均濃度が特に高い局

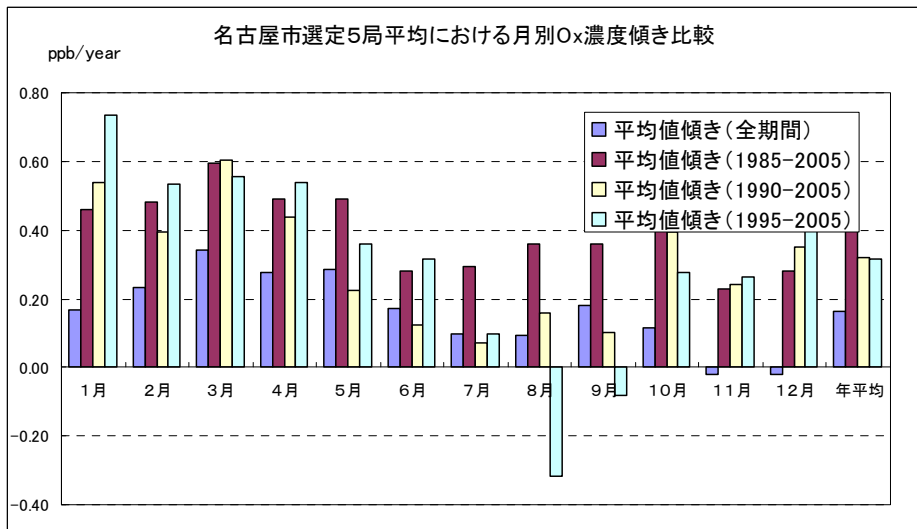
東海・近畿地域のまとめで述べたように、O_x 年平均濃度では、特に高い局が見られる。これらの局(大阪府南海団地、大阪府富田林市役所、愛知県幡豆町中央公民館、国設名古屋、京都府宮津)について、比較検討を行った(表 2)。全体として、NO_x が低いことが原因と考えられ、PO では、際だった特徴は示さない。O_x 濃度ランク別時間数を見ると、20～79ppb の濃度の多い局と、60～119ppb の濃度の多い局がある

図1. Ox 月別濃度増加率比較

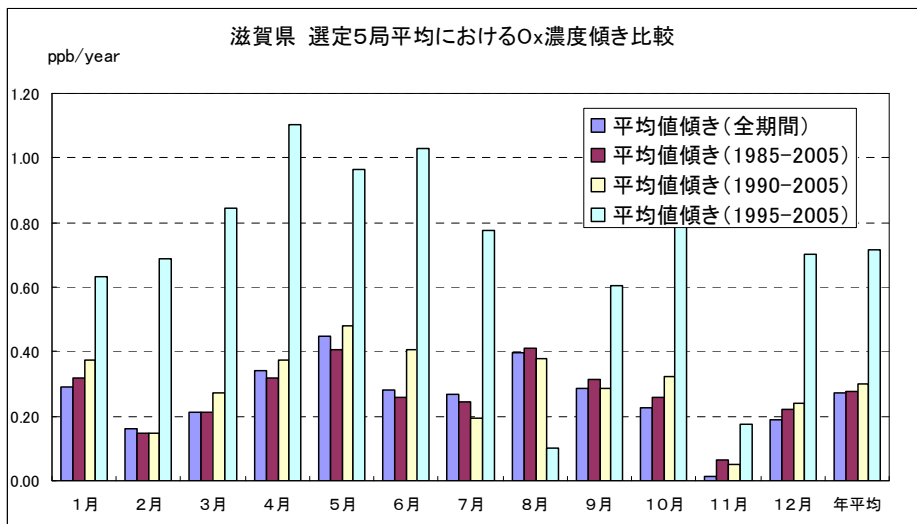
1. 愛知県



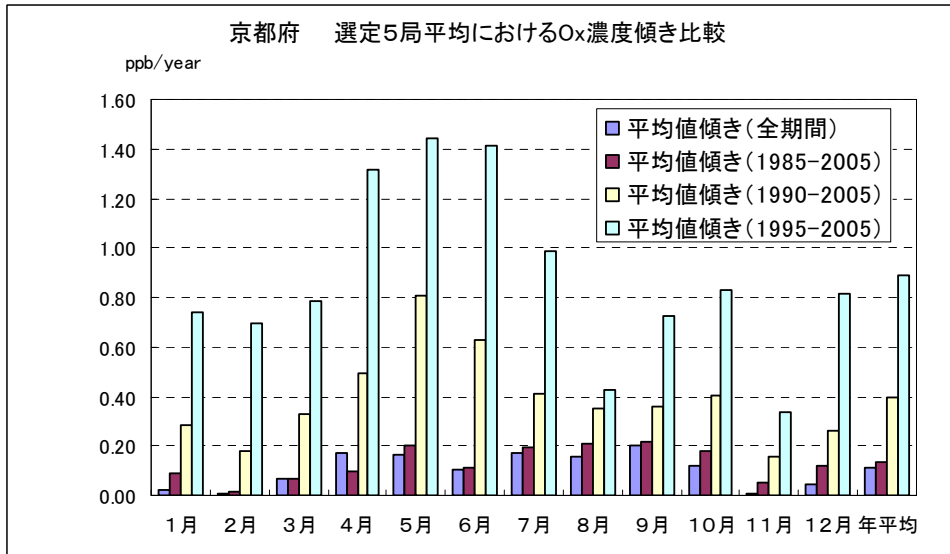
2. 名古屋市



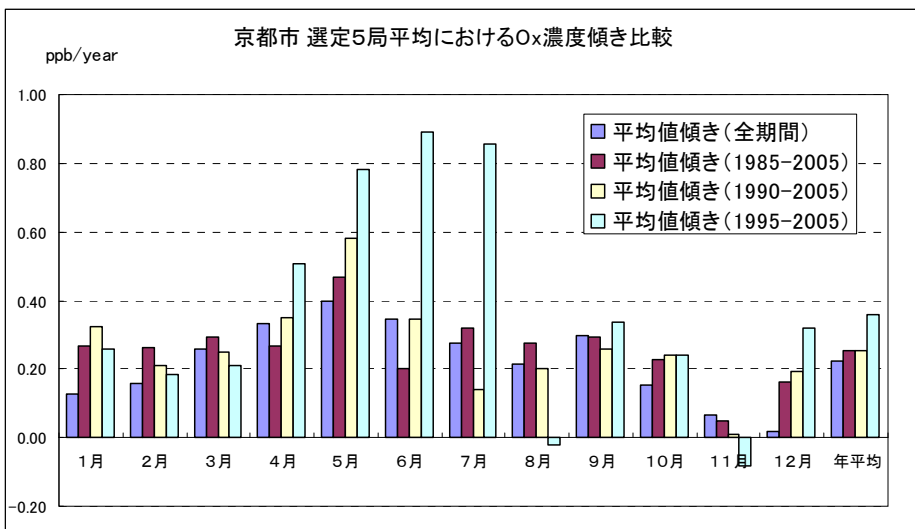
3. 滋賀県



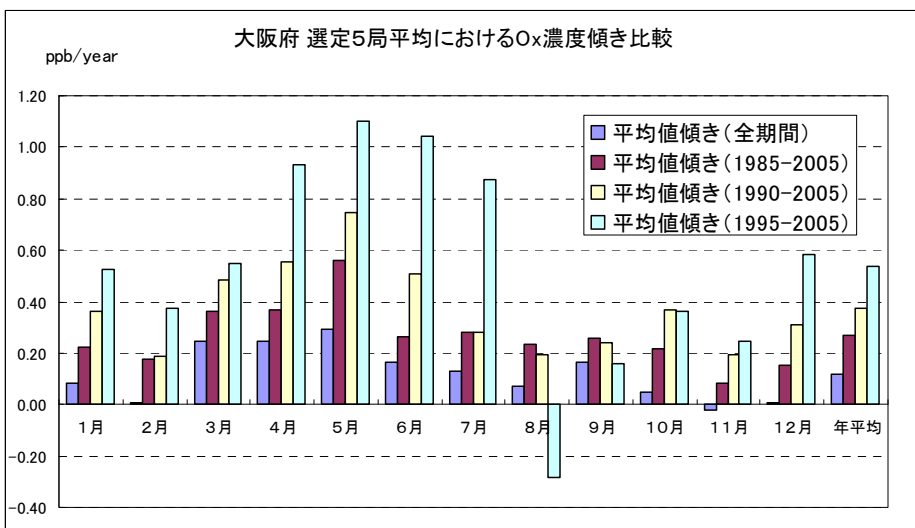
4. 京都府



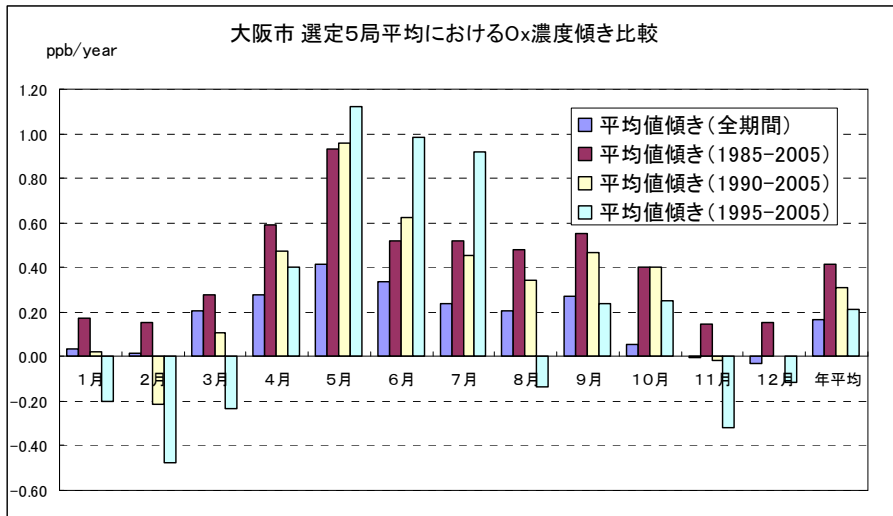
5. 京都市



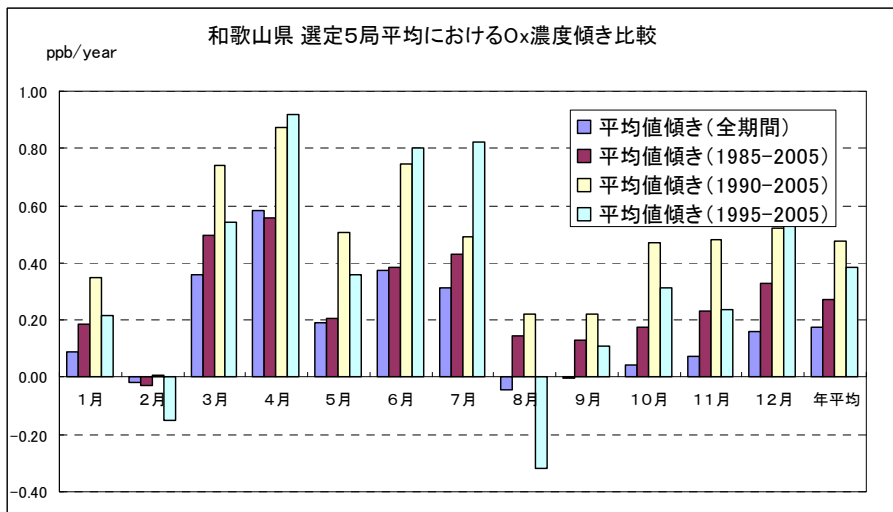
6. 大阪府



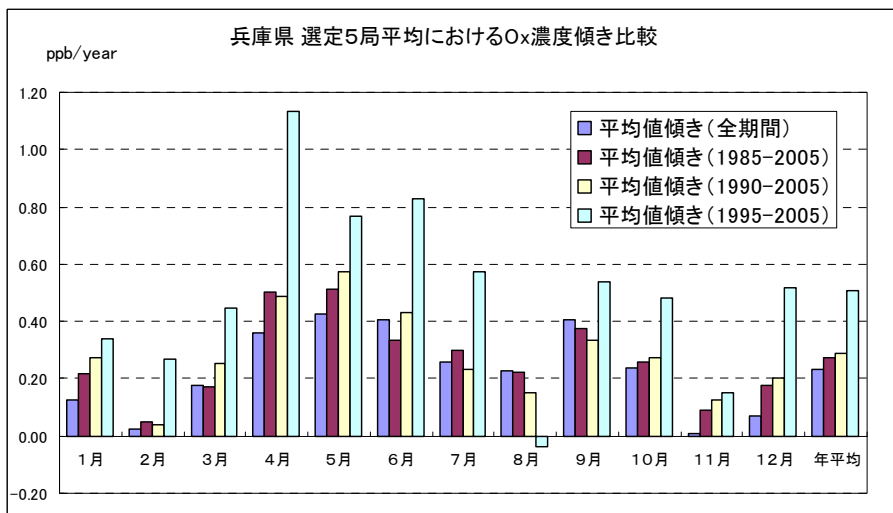
7. 大阪市



8. 和歌山県



9. 兵庫県



10. 神戸市

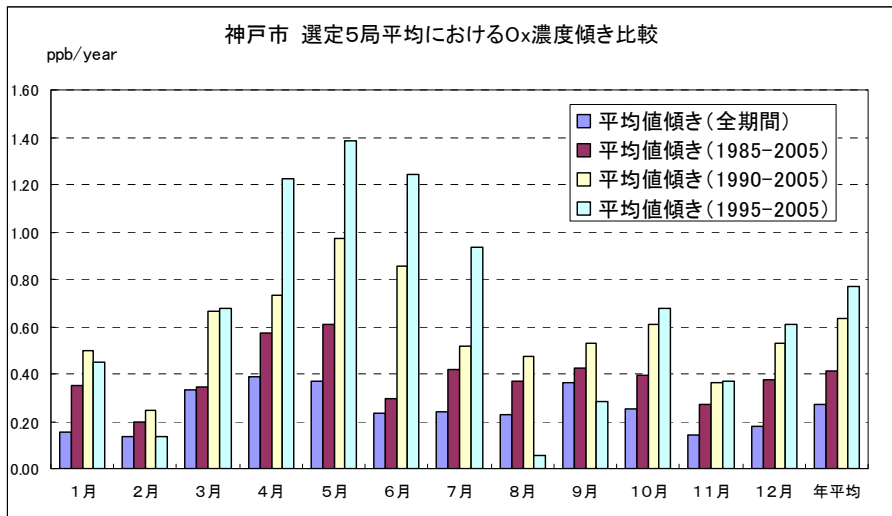


表 1. 月別濃度ランク別経年変化まとめ

府県	月平均の特徴	濃度ランク別特徴
愛知県	全体に2003年以降、増があるが、明瞭でない。	2003年以降、4~7月、90~119ppbに増。
名古屋市	4~7月に若干の増。	全体に低い。
滋賀県	4~6月に増。	1999年以降、4~6月の80~99ppbに増。
京都府	全体に近年(2001年以降)増。特に4~7月。	2002年以降、4,5月の80~99ppb、6,7月の100ppb~に増。
京都市	4,5月に若干の増。明瞭でない。	2000年以降6月に増。しかし明瞭でない。
和歌山県	4月に若干の増あるが、明瞭でない。	2000年以降、6,7月、90~99ppbに増。
兵庫県	4~6月に増。	1999年以降、5,6月、80~99ppbに増。
神戸市	4~6月に増。	2000年以降、4~7月、80~119ppbに増。
大阪市	4~6月に増。	1999年以降、5月80~89ppb、6月90~99ppbに増。
大阪府	近年4,5月高い	1998年以降の5月、80~109ppbに増
全体に	春~初夏にかけて月平均濃度の増が見られる。	春~初夏の濃度増は80~109ppbのランク付近の増。

表 2. 0x 年平均濃度が特に高い局

局名	南海団地	富田林市役所	幡豆町中央公民館	国設名古屋	宮津
府県市	大阪府	大阪府	愛知県	名古屋市	京都府
0x年平均濃度	高い	高い	高い	高い	高い
0x濃度ランク別時間数	20-79ppb多い	60-119ppb多い	20-79ppb多い	60-119ppb多い	20-69ppb多い
0x月平均値経月変化	全体に高い	4.8月に高い	全体に高い	4-9月高い	全体に高い
PO	低くなり、ばらつき消える	低くなり、ばらつき消える	低くなり、ばらつき消える	低くなり、ばらつき消える	低くなり、ばらつき消える
SPM	低い			低い	低→高くなる
NOx	低い	低い	低い	低い	低い